

初めての寄付「ヘアドネーション」

御油小・5 川瀬 妃葵

「かみの毛が短くなっちゃった。」

わたしは、五年生の四月にかみの毛を寄付しました。寄付とは、病気でかみの毛がない子に三十センチ以上のばしたかみの毛を切つてあげることです。

一年生からのばしてきたかみの毛、切る前は少しドキドキしました。理由は、かみの毛を切った次の日に「かみの毛切ったの」と言われるのが好きじゃないし、どれぐらい短くなるか心配だったからです。それに、少しだけさびしい感じがしました。一年生からのばしてきて、五年間ずつとのばしたかみの毛が短くなっちゃうからです。でも、病気の子が笑顔になってくれたらうれしいので切りました。こまっっている人の役に立ちたいという思いで、約五年間かみの毛をのばし続けてきましたが、思いもしなかった苦勞がありました。

わたしが寄付の意味を知ったのは、小学一年生の時で、お母さんが、

「ひまちゃん、寄付やってみたい？」

と提案してきました。わたしは、

「やる。」

と言ったものの、意味を知らなかったので、お母さんと寄付のニュースを見ました。生まれつき、全身の毛がないことで、つらく、悲しい思いをしていることを知ったので、わたしはヘアドネーション

をしようと思いました。

人の役に立って、こまっっている人が笑顔になることを想像しました。すると、わたしまで笑顔になっていました。その動画を見た後、わたしはすぐお母さんに、

「やる。」

と伝えると、お母さんは応えんしてくれました。わたしも、最初はやる気満々でした。しかし、のばし続けた五年間は、思っていたよりも大変でした。最初は短いかみの毛よりも長いかみの毛の方が自分に似合うかなと思いい、切らずにのばしていました。かみの毛が長くなるにつれて、かみの毛をあらう時間も長くなっていき、だんだんいやになりました。ドライヤーをするのにも時間がかかって、イライラしたこともありました。シャンプーをしてあらうのに四分以上、リンスをして流すのに二分、合わせて七分くらいかかります。さらに、ドライヤーがもつと大変でした。せっかくリラククスしておふるからあがってきたのに・・・でも、寄付をして喜んでくれる人がいることを考え、がまんしました。わたしは、頭の中で、たえた分だけ、いいことがあると信じてがんばりました。

そんな風にながまんしていた時、ある人にこんな言葉をあびせられました。

「寄付なんか、しなければいいのに。」

わたしは、いっしゅんで、頭が停止してしまいました。他人が言っていること。自分には関係ない。そう思っても、とても悲しい気分になりました。ここまですばらばつてのばしてきたのは、むだなことだったのかな。自分は、すばらしいことだと思ふのに、他人からは、やめた方がいいと思われている。みんなもそう思っているのかなと

思いこんでしまって、よけいに悲しくなりました。同じことを言われるのがいやだったので、寄付をやめようと思いました。心のおくではやりたいと思っっているけど、また同じことを言われたくないので、あきらめようと思いました。そんなわたしを見ていたお母さんは、

「別に無理してやらなくていいよ。それは、ひまちゃん次第だよ。」
と言ってくれました。お母さんにそう言われて、ウィッグをつけた時のうれしそうな顔をしていた人のことや、男の子もヘアドネーションをして、いやな言葉を言われていたけど、最後までその言葉に負けずに寄付をしていた事を思い出しました。あの男の子ができるなら、わたしにもできるという思いで、続けようと決めました。

お母さんに、
「寄付する。」

と言うと、お母さんは、
「がんばれ。ひまちゃんならできるよ。」
と言ってくれました。

それからはあつという間に時間が過ぎ、五年生になりました。五年間は、短くてあつという間でした。

三十センチはかつて、ゴムで止めます。東がくずれると、バラバラになって大変なことになるので、ゴムの上を切ります。

ジョキン。これでやっと寄付ができる。

ジョキン。これでかみの毛をあらうのも、かわかすのも楽になる。

ジョキン。これでいやな言葉を言われなくなる。

ジョキン。どれくらいかみの毛が短くなるんだろう。

ジョキン。でも少しさみしい。

あつという間に全部切ってもらい、かみの毛の長さも整えてもらい、寄付が終わりました。寄付したかみの毛を見ると、長く感じました。お母さんや家族は、

「おお、めっちゃすっきりしたね。」

と言ってくれました。うれしかったです。でも、心の中ではああ、明日絶対みんなに言われるなあと思いい、次の日がやってきました。学校に行くときやっぱり、みんながわたしの方を見ていました。ですが、友達の反応は、

「かみの毛切ったひまちゃん、めっちゃかわいい！」

と言ってくれました。うれしかったし、切ってよかったと思いました。

その後、ヘアドネーションで寄付された人の記事を読みました。「とてもうれしい。ありがとう。」というメッセージと笑顔の写真がのっていました。わたしのかみの毛ではないですが、きつと、こんな風にわたしのかみの毛もだれかを笑顔にしているのかなと思います。

わたしはしよう来、何になるのかは決めていません。自分の好きなことをしたいし、楽しいことをして生きていきたいです。けれど、一番したいことはだれかを助け、笑顔にすることです。今回寄付をしたことで、しよう来やりたいことが少し見えてきた気がします。